



平成28年度東京都公文書館企画展示

**東京** 「文化スライド」にみる  
東京～昭和20年代  
**1945 - 1954**



## はじめに

東京都公文書館では、公文書のほか、行政刊行物や写真類・映画など、多様な媒体にわたる都の歴史的資料を収集・保存しています。

本展示では、それらの中から、都民室広報部が昭和27年(1952)以降、都政広報のために作成・発行した「東京都文化スライド」を取り上げました。

「文化スライド」には、都の行政分野に則して、さまざまな昭和20年代の東京の様子が写し取られています。その内容は交通・水道・下水・道路などの都市基盤整備、教育・保健衛生・社会福祉などの住民サービス、産業・経済や人口・食料・財政・住宅など深刻な行政課題に関するものまで多方面にわたっています。

これらのスライドの中から、高度成長期を経て現在では失われてしまった懐かしい東京の姿を選び、現在の様子とあわせてご紹介します。

この機会に70年前の東京の姿をじっくりご観覧ください。

平成28年7月  
東京都公文書館長

平成28年度東京都公文書館企画展示

東京1945-1954 「文化スライド」にみる東京～昭和20年代

展示会場：東京都公文書館 展示コーナー

入場無料

展示期間：2016年7月21日(木)～9月16日(金) 休館日：土日祝日・8月17日

開室時間：午前9時から午後5時まで

\*本展示では、基本的人権の尊重について十分な配慮を行っています。ただし、展示資料の中には、現在では使われていない用語や不適当な表現が用いられているものがありますが、歴史的資料としての価値に鑑みそのまま展示しています。

\*展示資料は、予告なく変更することがあります。

\*開催にあたっては、資料の提供をはじめ、各機関等に多大なご協力をいただきました。以下に名称を記して感謝を申し上げます。(順不同)

稲城市教育委員会 青梅市商工会議所 川崎市立川崎市民ミュージアム 清水牧場(瑞穂町) 長谷川怜  
千代田区立日比谷図書文化館 ホットマン株式会社 公益財団法人東京都公園協会  
一般社団法人東京都港湾振興協会東京みなと館 公益財団法人東京都島しょ振興公社  
公益財団法人東京都農林水産振興財団 東京都港湾局・財務局・水道局・都市整備局



# I 丸の内にあった都庁

第1代目の東京都庁舎(都庁)は、昭和18年(1943)東京都発足の際、東京府庁・東京市役所の庁舎を引継ぐ形で成立しました。この建物は、明治27年(1894)東京府庁舎として丸の内に完成、明治31年(1898)に東京市役所ができると、東半分を市役所として使用する形となります。

昭和20年(1945)3月10日の空襲で壊滅的な被害を受け、戦後しばらくは焼け落ちた残骸がさらされていましたが、昭和22年に解体を決定、23年に完了します。

庁舎の建て替えはまず都議会議事堂から着手されました(25年竣工)。本庁舎については、27年に設計案が決定され、28年に着工、32年に竣工しました。

本コーナーでは、都庁が千代田区丸の内にあり、本格的復興の途上にあった頃の、都庁とその周辺の様子をご紹介します。



有楽町付近の航空写真  
(文化スライド第1輯「東京の人口」昭和27年6月)



仮庁舎入口(日本赤十字社東京都支部)  
(文化スライド第8輯「東京都議会」昭和28年1月)



第一本庁舎模型  
(文化スライド第28輯「清ちゃんの日都知事」昭和29年10月)



都議会議事堂  
(文化スライド第8輯「東京都議会」昭和28年1月)



現在の様子  
(東京国際フォーラム)

## Ⅱ 文化スライドとは

文化スライドとは、東京都が昭和27年(1952)から昭和44年(1969)にかけて製作した都政に関する広報スライド「東京都文化スライド」シリーズを指します。総数167タイトルが作られ、都内の公立小中学校や図書館、公民館などに配布されました。

東京都公文書館には、各タイトルのスライドフィルムと、収録内容を解説した台本の一部を所蔵しています。このうち今回の展示では、昭和20年代に製作したスライドから都内各地の風景を写した画像を中心に取り上げています。

このコーナーでは、まずこれらスライドが当時どのような形で実際に用いられていたのか、その概要を紹介します。



スライドフィルム保管状況



学校教育におけるスライド活用  
(文化スライド第7輯「東京の教育」昭和27年12月)



農業改良普及員によるスライド上映  
(文化スライド第29輯「東京の農業」昭和29年11月)

**スライド視聴コーナー(DVD版)**  
文化スライドとその解説書(台本)を素材にして、スライド上映イメージを再現しました。



(文化スライド第12輯、昭和28年5月)



(文化スライド第22輯、昭和29年3月)



(文化スライド第29輯、昭和29年11月)

## Ⅲ 都心の街並み

太平洋戦争末期の空襲により、東京は甚大な被害を受けました。終戦直後の東京では、財政難・資材不足や激しいインフレに加え、度重なる台風の襲来を受け、復興には多くの困難が伴いました。

こうしたなか初代都知事安井誠一郎は、首都東京の都市整備を国家的事業として位置づける方策として、首都建設法の成立を推進し、昭和25年(1950)同法が施行されます。

東京都文化スライドの製作が始まった昭和27年度は、サンフランシスコ平和条約が発効し、日本はようやく米軍を主体とする連合国軍(GHQ/SCAP)による占領から脱した時期にあたります。GHQによる各種施設の接収も解除されつつありました。

本コーナーでは、戦後の混乱や人口集中に伴う様々な問題を抱えつつも、首都として復興途上にあった東京中心部の姿をご紹介します。



数寄屋橋付近の様子  
(文化スライド第12輯「東京の観光」昭和28年5月)



日本橋  
(文化スライド第19輯「東京の橋」昭和28年12月)



現在の様子



渋谷駅前の交通整理  
(文化スライド第30輯「東京の財政」昭和29年12月)



現在の様子



数寄屋橋近辺  
(文化スライド第22輯「清ちゃん街を行く」昭和29年3月)



現在の様子

# IV 近郊の風景

ここでは、大正から昭和にかけて都心のベッドタウンとして発達した特別区23区外縁部の風景を撮影したスライド画像を紹介します。

昭和7年(1932)、東京市は急激に都市化が進んだ周辺5郡82町村を編入し、現在の23区とほぼ同じ範囲にまで拡大しました。本コーナーで取り上げる「近郊」とは、このとき東京市に組み込まれた地域を指しています。

戦前から人口増加が続くこれらの地域では、戦後復興の過程で駅前に多くの商店が並ぶようになり、行き交う人々で賑わいをみせました。その一方、都市化への対応が追いつかず社会インフラの整備がいまだ十分に行き届いていない状況も見て取ることができます。



田園調布の温室村  
(文化スライド第29輯「東京の農業」昭和29年11月)



東長崎駅前(豊島区)  
(文化スライド第13輯「東京の商業」昭和28年6月)



現在の様子



板橋駅前(板橋区)  
(文化スライド第27輯「東京の下水道」昭和29年9月)



現在の様子

# V 多摩と島しょ

昭和20年代初頭、多摩と島しょ地域は、当時深刻な社会問題であった「食糧」の生産地として重要視されました。さらに初代都知事安井誠一郎が重視した観光振興の上でも重要な位置づけにありました。本コーナーではそれらに関連するスライドを中心に紹介します。



昭和26年(1951)5月に噴火した大島三原山  
(文化スライド第14輯「東京の島々」昭和28年7月)



昭和25年(1950)都立自然公園に指定された高尾山  
(文化スライド第16輯「多摩の風物」昭和28年9月)



小河内ダム

(文化スライド第16輯「多摩の風物」昭和28年9月)



現在の様子(東京都水道局提供)



三宅島三池浜(テングサ採取)

(文化スライド第14輯「東京の島々」昭和28年7月)



現在の様子(公益財団法人東京都島しょ振興公社提供)

# 子どものくらし

学童疎開を経験し、また戦災によって家や保護者を失うなど、戦時下の子どものくらしは戦争によって翻弄されました。終戦後も、東京の街には戦災孤児、浮浪児などがあふれ、混乱のなかで厳しい生活を強いられることになります。

一方で昭和22年(1947)日本国憲法の施行により、基本的人権が保障され、子どもたちは健康で文化的な生活を営み、教育を受ける権利を獲得します。

しかし実際には、戦時中から引き続く食糧不足により子どもの体位は低く、その対策のひとつとして学校給食が開始されます。

義務教育の年限も小学校6年、中学校3年の9年間に延長されますが、



校庭での体操風景  
(文化スライド第7輯「東京の教育」昭和27年12月)

戦災と人口増加による教室不足は深刻で、各地で青空教室、二部・三部教授などが行われました。

こうした課題をかかえたなか、昭和20年代の東京の子どもたちは、どのようなくらしをしていたのでしょうか。



学校給食  
(文化スライド第7輯「東京の教育」昭和27年12月)



おもちゃ屋の前  
(文化スライド第23輯「一郎ものがたり」昭和29年4月)

## 東京の水辺

戦後、東京の水辺はいくつもの役割を果たしてきました。復旧した隅田川の乗合蒸気船は、通勤通学者の足として、人々の生活を支えました。戦災復興の大きな障壁であった、大量の瓦れき処理に利用されたのは、堀や小河川です。東京駅八重洲口前の外濠や三十三間堀川などを埋め立て、その土地を民間に払い下げて都市整備のための事業費に充てました。戦後の経済復興の拠点となった東京港、東京国際空港(羽田)では、東京湾の埋立て工事によって諸施設が誕生します。そうした建築工事に使用された土砂や砂利は、河川から採取されたものでした。戦後の東京の復興は、水辺と共にあったといえるでしょう。



完成予定の東京港  
(文化スライド第11輯「東京港」昭和28年4月)



東京湾  
(文化スライド第28輯「清ちゃんの日都知事」昭和29年10月)



現在の様子  
(東京都港湾局提供)

東京都公文書館は、1968年(昭和43)10月、東京都の公文書等を総合的・統一的に保存管理するために開設されました。

以来今日に至るまで、東京都の歴史的資料として重要な価値を有する公文書等を収集・保存するとともに、一般への公開を行ってきました。

現在、約91万件に及ぶ東京都公文書のほか、東京都の前身である東京府・東京市行政文書(約33,807点・重要文化財)や、江戸・明治期の史料等を保存・公開しています。

### 東京都公文書館

〒158-0094 東京都世田谷区玉川1丁目20番1号  
TEL 03-3707-2604  
<http://www.soumu.metro.tokyo.jp/01soumu/archives/>

### 交通アクセス

東急田園都市線・東急大井町線「二子玉川」駅東口下車 徒歩約15分  
東急大井町線「上野毛」駅下車 徒歩約10分  
東急二子玉川駅・上野毛駅から東急バス(黒02系統)「玉川高校前」下車

### 編集・発行

東京都公文書館  
平成28年7月発行



東京都公文書館HP